

## 令和5年度あきる野市スポーツ推進審議会（第3回）議事要旨

開催日時 令和6年3月13日（火）午後7時～9時

開催場所 あきる野市役所 5階 505会議室

出席者 江川委員、吉田委員、町田委員、金網委員、菱田委員  
高岸委員、森本(久)委員、田中委員

事務局 遠藤生涯学習担当部長、一瀬スポーツ推進課長、小林スポーツ推進係長、  
スポーツ推進係 寺島

- 1 開 会 一瀬スポーツ推進課長
- 2 挨拶 江川会長、遠藤生涯学習担当部長

### 3 議 題

#### (1) スポーツ推進計画に基づく取組状況検証シートについて

(会長) スポーツ推進計画に基づく取組状況検証シートについて、事務局より説明をお願いします。

(事務局) スポーツ推進計画に基づく取組状況検証シートについて、資料に基づき説明。

(会長) 実施できない環境やコロナ禍で計画や準備をしたが実施できなかったということを含めて評価しているため、ただ実施していないからC評価ということではないです。

(委員) Aについても実施したが、課題はあるという解釈でよろしいか。

(会長) 計画の目的通り実施した事業と計画通り実施したが、計画自体に課題があったということも含めて事業の実施の基準になっています。

(委員) Aの評価でも課題があるのであれば共有した方が議論をしやすいのではないか。

(会長) 市内の大きなイベントを実施すると、色々な方が参加するため、多くの市民に周知するという点ではいいと思うが、それがスポーツ実施という観点に立った時に、このイベントに4,000人来たからA評価でいいのか。また、パブリックビューイングでいうと、C評価であるが実施する機会がなかっただけであり、実施していたらまた違う評価となっていたと思います。このシートで大事なのは実施率ですので、多くの方が実施するかどうかという観点でいうと、人数が多く来ているから評価的にはいいことではなく、また、実施できないことが駄目ということではないです。

事務局から配布された参考資料というのが、平成26年からの年推移の比較一覧で、ヒヤリングシート自体は、当初の平成25年度の計画内容と、直近の令和4年、5年の2カ年の変化が出てくるものとなっています。ご指摘があったように、評価がAでいいのかというと、より工夫できる事業もあると思います。そのような点では、目標自体の計画を変えたり、内容を拡充するなど、これから必要になってくると思います。当時の平成25年から比べると、状況が全く変わっており、高齢者もコロナ禍の中で変わってきました。また、実施種目も変わっています。

(委員) 第1次計画の最終年度は令和5年度に当たるのですか。

(事務局) 令和4年度です。第2次計画が5年度からスタートしております。

(委員) 資料にある令和5年度は、第2次計画に基づいているということですか。

(事務局) このシートでは、第1次計画の令和4年度の評価をしておりますので、比較をするために今年度のデータをそのまま第1次計画の事業に合わせて評価を行い、この次から第2次計画のシートを新たに作るということです。その点についても課題を載せるなどご意見をいただければと思います。次期シートについても検討の概要としてご意見いただければと思います。

(会長) 令和4年度で終わりですが、新型コロナウイルスを想定せずに計画を作ったために、単独で評価をするのは難しいと思います。第2次計画の項目と、これから新しく前向きに評価していく次のヒアリングシートの形は変わっていくことが大事だと思います。

(委員) スポーツレクリエーション大会については完了とありますが、第2次スポーツ推進計画を作る時にアンケートを取ったときに、事業の再開の要望が80%近くありました。第2次計画の項目からなくなったのでしょうか。以前の回答では、これに代わるものを何か検討したらどうでしょうかという話で、結論はでていなかったですが、議題にはなったかと思います。アンケートの結果で非常に多くの希望があり、中止になった理由については色々と議論をしたが、それに対してどういう対策をして、次の企画については話していなかったと思います。第2次計画でどういう形にしていくのか、まだ計画がないのであればどのようにしていくのかお聞きしたいです。

(事務局) スポーツ大会・イベントについては、各項目にも入ってきていますが、時代に合ったものを計画していくという内容となっており、ご意見いただきながら、出てきた内容を反映し、検証、具体的にしていきたいと思います。

(事務局) 第1次計画では、各事業ごとに名称が残っていたので、これに従って評価したためスポーツレクリエーション大会という名称が残っていますが、第2計画については、色々と課題があったため、事業名を載せておらず、大枠で作り、具体的なスポーツ大会やイベントの開催というところで、今後第2次計画の評価については各担当課で、事業の部分を項目で出し、評価ができたかと考えております。

(会長) このヒアリングシートの別の意図としては、他の部署でも、スポーツに関連する多くの事業がされており、重複や連携不足などを洗い出すという点であります。そのため、スポーツ推進課の事業を検討する時とヒアリングシートにおける70%の事業貢献がどうなっているのかという点で洗い出すことで、まず実施についての評価をして、次に、何人に影響があり、その結果として70%にどう到達するかということ、令和4年度と令和5年度の内容に変えていきたい。ただ毎年実施率を測っているわけではなく、第2期のスタート時点での数字よりも高めていくということで、この事業の必要性や洗い出しができると思います。第2次計画の事業はスリム化することもあり、今まで取り組んでいない事業も含めて、色々な視点から、シートを替えていくという内容だと思います。第1期の最終スポーツ実施率は何%ですか。

(事務局) 59.3%です。

(会長) 目標と比べると、人口8万人で考えると、あと何人がスポーツに関わればいいのか。どこが足りていないのかというのは、単純に人数割りではないので、年代や地域性や世帯から考えなければいけないところもあるかと思います。

総合型地域スポーツクラブ関連もありますが、総合型地域スポーツクラブが1自治体に2つあるところは、全国ではそう多くはないです。そのようなところも多く役割がありますので、どういう事業部が70%に向かって貢献するのか、Cという評価だけではなくて、洗い出しをしていかなければならないです。

(委員) スポーツ教育の推進というところで、講師たちが来て指導する中で、これにかかる

費用があると思うのですが、今後、予算的にだんだん増やしていけるものなのか、それによって呼べる講師も変わってくると思うので、教えてもらえないですか。

(事務局) この事業については、オリンピック・パラリンピックの時には予算を確保していたのですが、今はほぼない状況だと思います。ただ、例えば来年世界陸上が東京で開かれますので、それに向けて東京都で取り組みが予定されており、アスリートを身近に感じてもらうという機会が少しずつ出てくると思いますので、いろいろな機会が比較的あると思います。ただし、オリンピック・パラリンピックの時のようなところまではないので、市独自というよりは東京都の動向を伺いながら、うまく活用しているというのが、今までの状況です。これから東京ではそういった機会が、比較的あるかなと思います。

(委員) アスリートのお話を聞かせてもらうことはとても興味があります。

(会長) 当時のアスリートと触れ合った子ども達は、学校関係者として、その恩恵には預かってきますが、地域住民からすると部分的です。そのため、そういう機会がもっと広がっていくといいと思います。確かに Youtube で色々と配信するなど、何か手段はあるので、そういうことを学校の色々な取り組みの中で、スポーツ実施率とうまく繋がっていくといいと思います。

(事務局) 今年度、小中学生の駅伝大会を4年ぶりに開催しまして、そこでは近くに亜細亜大学の駅伝部がいるため、学校から希望を聞いて、その日にあわせて、亜細亜大学の監督やトップ選手が、駅伝の指導を各学校でしたという実績があります。

(委員) 平成25年8月の既定計画にあるスポーツ教育の推進の内容で、学校の中では、令和3年、4年から変わっていて、例えば、一校一取組や一学級一実践ということで、計画を立てて、実際に実施して報告をする流れだったが今は全くないです。オリンピック・パラリンピック競技については、そのまま継続して進めていくという方向性があり、その中で、各学校ごとに工夫をしてできているところや、オリンピック選手やパラリンピック選手を呼ぶことについては、希望を取ることも少なくなってきましたが、ただ今年度は、バレーボール選手による講演会をしました。そのあとの駅伝大会の講習会を実施した際に、元オリンピック選手に来ていただいたことが、いい刺激となり、さらに駅伝大会に意欲的になったと思いました。お手本のように走ってもらうことで、今まで見たことがない走りを、目の前で見れることで、やる部分とする部分、見る部分と、とてもいい機会だと思いました。これはまた来年も継続して行っていければと思います。学校に関係するところでは、子どもすもう大会とドッジボール大会、駅伝大会の3つについて、コロナ禍前とやり方が異なるところがありますが、コロナ禍前に戻すよりも、時代の流れから新たなやり方が望ましいと思います。今の時代に合うやり方で進めてもらえると良いと思っています。もう一つ、あいさつ標語カルタ大会について、スポーツ推進計画の中に入れていなくても良いのかなと思います。

(会長) 第1次の計画を作る時に、例えば将棋というのはスポーツかという話です。それから、スポーツ吹き矢やチェスはスポーツですか。その拡張がeスポーツの議論となったり、それから車椅子でボッチャをやる人は、スポーツに含まれるのか、色々な議論がありました。考え方をこれからまた第2期で整理しますので、貴重なご意見だと思います。

(委員) ヒアリングシートのアウトドアスポーツの内容で、1,920人の参加者がおりましたが、実際は市の事業ではなく、大規模な山岳耐久レースの参加者の報告となっており、後はスポーツ推進委員の事業となっております。あきる野市の自然の中で、自然を活

用しているスポーツが少なくていいのか考えていかないといけないと思います。あきる野市にある体験学校などをうまく利用し、具体的に市の取組として市内の施設等を使ってアウトドアの事業を何かできないかと思います。

また、今、夏季プールが暑すぎて使用できないという状況であります。克服しないと小学生の泳力の低下が起こっているところです。授業としても行えない状況です。思い切って五日市ファインプラザと市民プールについて夏休みに無料にするなどして、子どもたちにもっとプールに入れさせることをしないといけない。市内の小・中学校のプールを開放しても、屋外のため、このような状況で気温が高い以上、市のプールを小・中学生に開放する気持ちで取り組んでいくことが必要ではないかと思います。

コロナ禍になる前に、トップアスリートを呼んで柔道教室を実施したことがありました。また、次回金メダル候補の方を呼んで、教室を実施するとなった場合、実際に柔道教室に来る子の場合、そのメダルを見てすごいと思うだけで、ほかの市内の子どもにはすごさが伝わらない。そのため、種目を限定して、その対象者を絞って取り組むことで、市としても事業を取り組みやすくなるのではないかと。陸上と柔道だと競技人口から感動を受ける子にも差があります。そのため、陸上の場合、マラソン、リレーを隔年で分けて、運動会が近くなったら実施するとむしろ、色々な子に感激を与えられると思います。

(会長) スポーツの盛り上がりにも波があるので、その波をうまく捕まえて、事業化をして、それを続けていくか変えていくかということを考えていかなければいけないと思うのですが、東京オリンピック以降、もともと考えていた内容がずれていますので、市の色々な方々のご意見を取り入れていければいいと思います。

(委員) スポーツ推進委員のペタンク事業について、7回開催して参加者数48人いますが、平均的に参加者が約7名、同じ方が、繰り返している感じですか。

(委員) そうです。油平クラブハウスの近くの方が来るか、ペタンクを好きになった方が来ています。そのため、常連が多く、すぐに試合をはじめています。

(委員) ここでペタンク講習会に参加している方々の中で、自分たちでペタンクをやり始めた方はいますか。

(委員) それはいいです。実はこの競技はかなり前から実施していますが、自主的にというところまでは至っておりません。フランスが発祥であり、ルールも遊びのような感覚で、ポッチャに比べるとフランクに実施できます。実施人口を広げたいですが、道具が高いということと、マイボールを持っている方がいない。そのため、道具のセットがもっと自由に使えるとより参加者は増えると思います。ただし、グラウンドを取ることができずに公園でやっているのを見たことはありません。そういう方が増えてきたらよりいいと思うのですが、スポーツ推進委員が事業で実施してもなかなか人数が増えていない状況になっています。

(委員) 先日、ペタンク講習会が3月にありまして、教員4人参加させていただいて、室内ペタンクを覚えてきました。なぜかというところ、そこで教わったことを、来年度総合的な学習の時間に、色々なスポーツを体験するという学習の中で取り入れて、その中で室内ペタンクをキッカケに、他にもニュースポーツ、障がい者スポーツや色々なスポーツがあることを自分たちで調べて、取り組むということを授業でやるために、参加して、道具を買い、来年度に実施するという方向でいます。

(委員) 先生方にはスポーツ推進委員が指導します。また、子どもたちがいるところでも、時間によっては、スポーツ推進委員の中で、役割を決めて行います。子どもたち全学年も対応できますので、是非声かけてください。

(会長) 地域のスポーツ推進委員の取り組みが、学校現場に伝わり、学校現場で小学校の先生方が授業で取り入れて、そこから、児童生徒に広がり、それがまた家庭や保護者に広がって、また地域に帰ってくるということについては、部活動の指導者の話と似ている構造になっています。地域でやっていることが学校に行き、また学校でやっていることが表にでてくるという循環をしていることが良いことであると思います。そういう計画が出てくると色々と変わっていくことになると思います。

(委員) あきる野市では、スポーツ推進委員がペタンクの普及活動をしており、それを小学校で導入します。そして活動する学校が増えてくると、地域として交流試合が実現できると思います。そうすると、学校単独ではなく、複数校になることで、それを市としても、室内ペタンクとして推奨していくと、その保護者も参加すれば、一気に地域感が増してくると思います。ペタンクも年代の差は関係ないと思うので、地域でニュースポーツとして、戦略を立ててもいいという気がします。すると、走るのが嫌だけどペタンクは好きという子が出てくると思います。また、大人になってもペタンクをやったことがある経験としてペタンクを継続して行ったり、再開することでスポーツ推進計画に基づいた戦略になると思います。ボッチャからペタンクやペタンクからボッチャというようにどんどんボーダーレスになって参加者が増えてくると面白いかなと思います。

(委員) 実は先週のペタンクの講習会に参加しました。もし中心になってやってくれる方がおり、組織化できれば、スポーツ協会からもペタンクの道具が買えるかと思ったが、講習会では、そのような方はいなかったです。確かに、誰でもでき、場所もあるので、うまくいけば、もっと人口を増やせると思いました。よくスポーツ推進委員が、ターゲットボードゴルフや色々と教育してくれたものをもとに、チームや組織を作って、そのままスポーツ協会へ入るとというのが、流れとしてあり、助成金も出せるので、そのような方向に持っていければいいかと思いました。

(委員) 昔は広めるために、各学校回り、地域の方を呼んで講習会を実施していた。埼玉県に研修会で行ったが、その地域ではすごい盛り上がりでした。ボッチャと違うところは、ルールについて自分たちで判断して行います。講習会では、便宜的に審判をつけて行い、得点を判断していますが、本来は審判はいません。子どもにとって鉄の球が危ない場合は、室内ペタンクで、大人の場合は、鉄の球で行うとより面白いかなと思います。

(委員) 金額はいくらですか。

(事務局) 1セット約2~3万円です。違うメーカーの道具もあります。

(委員) 障がい者のスポーツ活動の推進の中にある障がい者スポーツの理解教育では、できるだけ障がい者スポーツを色々な人に知ってもらい、あるいは学校教育として周知をする項目だとイメージがわきますが、実際に行われていることは、ボッチャ大会の前に、スポーツ推進委員が審判の講習会を実施しているということで、果たしてこの項目に当てはまるか疑問に思っています。次に、障がい者スポーツ指導者の育成指導ですが、項目を確認すると大会に参加している。これは指導者の育成なのか。また、障がい者スポーツ選手の講演会と実技披露の開催について、実施する機会がなかったことに違和感があります。講演会を企画しようとしてできなかった方がよかったと思います。市民運動会等における障がい者スポーツ体験・紹介ブースの設置についても、西多摩地域広域行政圏体育大会のことで、あきる野市独自の事業ではなく、内容に疑問をもったところです。独自でやることは大変だが、ヒアリングシートとして、この項目の内容で正しいのかと思います。

- (事務局) 今までどおりに行ってきたところがあるので、今後は精査していきたいと思います。
- (会長) 総合型地域スポーツクラブとして取り組んでいる障がい者関係の事業で、今このヒアリングシートの中にありますか。
- (委員) 障がい者スポーツ・レクリエーション教室の開催の中に市から委託を受けている教室が入っています。総合型地域スポーツクラブで始めた障がい者スポーツのプログラムをある時期を境に市に渡している形になったので、その内容が反映されています。
- (会長) 指導者講習の問題や障がい者をどのように巻き込むかということ、スポーツ推進審議会で考えていることをどう伝えるのか、数年前に議論をしたと思います。そういった意味では、スポーツ推進課が主管となる事業の中にも障がい者スポーツが入っており、色々と障がい者を巻き込んで計画が進んでいくため、障がい者スポーツの観点から指導者の育成や実施率向上だけではなく、体制を作っていくことが重要となります。
- (委員) ヒアリングシートの目的として、各年度の事業を評価するわけですが、その1個ずつの事業をどのように実施したか見てわかることでシートとしての意味合いが出てくる。そのため、年度で事業のやり方を変えていたら同じ事業でも評価が変わってきます。だからそのような細かいところまで精査しなければならない。このシートそのものが、単にABCのランク付けだけではなく、事業がどのように展開されて、どのような工夫が必要なのか見るための一つのシートとして活用されることが必要ではないかと思います。

## (2) 令和6年度スポーツ推進課事業について

- (会長) 2つ目の議題に、令和6年度スポーツ推進課事業について、事務局よりご説明をお願いします。
- (事務局) 令和6年度スポーツ推進課事業計画について、資料に基づき説明。
- (会長) 事業計画については、経緯があって整理されており、計画が立てられていると思います。先ほどの流れで、ペタンクの大会の実施はありますか。
- (事務局) ペタンクについては、以前は大会を行っていました。3月の講習会后に大会を実施していたが、コロナ禍となってからは参加者が落ち込み、実施できない状況です。
- (事務局) 整理している事業と個別に示している事業がありますが、以前だったら、市で実施している全てのスポーツ教室を細かく示していたが、今は凝縮されています。
- (委員) 総合スポーツ祭について、市に委託とあるが、スポーツ協会と共催ではないですか。
- (事務局) 修正します。
- (委員) 今、学校の授業の中で、ダンスが必須になっているかと思うが、状況はどうなのでしょう。
- (委員) スポーツ協会の中にダンススポーツ連盟があり、大会も年に数回実施しています。
- (委員) それは大人ですか。子ども達はないのでしょうか。
- (委員) 学校のダンスでは、体育の中での表現運動で、学年によってそれぞれダンスの内容が異なって実施しています。
- (委員) 総合型地域スポーツクラブの事業では、チアダンスとヒップホップ系のダンスがあります。今年度はフラダンスを始めます。そこで、五日市ファインプラザで開催している大会がコロナ禍以降再開していないので、ダンス等の発表の場がなく、再開してほしいです。
- (事務局) 今年は実施します。
- (委員) スポーツの日スポーツフェスティバルでフットサル教室を実施しています。あきる

野市のスポーツ施設を市で予約しているため、通常利用している団体が施設を使えない。スポーツの機会を提供するはずが、普段使用している団体が、あきる野市で活動ができないことが起きているので、改善をお願いします。

(事務局) 早めに対応します。

(委員) 大谷選手のグローブについて、どういう扱いをして、どのような反響があったのか教えてください。

(委員) 大谷選手のグローブはあきる野市は、各小学校によって使い方が違います。ただ、そのグローブが送られる時に、地域の5団体のクラブからボールも一緒に寄付していただいて、休み時間や放課後に、そのグローブを順番に貸し出ししています。それから、グローブの贈呈式を行い、その時に始球式を全校集会活動で行いましたが、基本的には放課後に使っているということが多いと思います。体育の授業で使うのは数が少なく難しいかと思います。

(委員) トップアスリートを呼んできて、見せることでそのスポーツをやるきっかけに繋がっていくかと思います。そういう思いで行ったと思いますので、有効活用していただければと思います。

(委員) 総合型地域スポーツクラブが設立してから、様々な事業展開をしていると思いますが、現在困っていることはありますか。市でも円滑に進めるために支援をするということがありますが、具体的にどのような支援をしているのか教えてください。

(委員) 支援の内容としては、事務所を公共施設の中にお借りして、そこを拠点にしています。それから施設利用に関して、指定施設の中で使用料免除で利用しています。また、優先的に決められた範囲の中で利用しています。クラブにとって活動場所が安定するのは良いことです。あとは、広報活動やチラシを市内の小中学校で配付したり、市のホームページでお知らせを掲示していたり、メール配信など広報活動の支援があります。

また、当初は、国からの助成金があり、これはマネージメントそのものに人件費が、あったところですが、これが年数経ち、なくなると、クラブをマネージメントするところに人件費が割けない。人件費を割くとなると、会費設定を上げなければいけなくなってしまう。そのジレンマで悩んでいます。また、コロナ禍によって、貯蓄が底を尽きてしまっているというのが今のクラブの課題です。

(委員) 規模が小さいため、運営していくスタッフの数が少なく、これ以上広げていくことはできません。ただ、コロナ禍で参加者数は減少しましたが、少し戻りつつあります。

(委員) 今、総合型地域スポーツクラブが立行かなくなっているところが出てきています。国が財源の一部である補助金を出していないからです。要するに、自主団体の活動を行いながら活動していくことが主流となりました。場所の確保は市で行うとして、財源的に難しいため、発展的に広げていくためには、財源的な支援が何かできないかと思っています。

(委員) 年齢的に指導者としても以前より活動範囲が狭くなり、マネージメントに専念したいが専念するための財源がないです。

(会長) 今の視点は、財源が中心の話になります。指導者を養成することや実施率を高めるというところで市には総合型地域スポーツクラブが2つありますが、今危機に瀕しているため、この団体を市としてどう位置づけるのか、それから委託する内容も含めて、今後どうしていくかの議論になるかと思います。

(委員) スポーツ推進課事業について、スポーツとして全力を尽くすということからウエル

ビーイングが重要視され、心地よさや幸福感などを大切にしたものがスポーツ推進計画に入っているため、良いと思いました。

(会長) 競技性が強くても、生涯スポーツや障がい者スポーツであっても、種類を問わず、「する見る支える」を含めて、色々な形での関わり方があります。あきる野市では、スポーツが古くから、根づいている関係性の中でスポーツ実施率70%ということで、計画をどんどん良くしていく必要があります。それから、子どもたちが減っていく中で、学校や地域などの垣根は考えず、多くのご意見等いただきたいと思っています。

#### 4 その他

(事務局) スポーツ推進課の予算について説明した。

#### 5 閉 会 吉田副会長